



今年の夏を振り返りますと、日本列島は沖縄から北海道まで熱帯を思わせるような猛暑が続いています。そういう中で、8月初旬は梅雨に逆戻りしたような天気が続きました。気温も上がり猛暑日が懐かしくなるような陽気でした。その不安定な陽気のせいでしょうか。7月後半から1歳児組を中心に「手足口病」が流行し、楽しみにしていたプール遊びができない子もいました。保育園生活を健康で過ごしてほしいと願っています。

また、温暖化の影響でしょうか。全国各地で異常なほどの短時間降水量が記録され、九州地方で河川の氾濫、土砂崩れ、東北地方でも河川の氾濫等で大きな被害が発生しました。幸いに当地区では、水害等の被害は発生していません。先日は南側民家から出火し、霧雨が降っていたにもかかわらず全焼してしまいました。その日が「山の日」で休園であったために、園児に不安等を与えずにすみましたが、毎月行っている避難訓練の重要性を実感する出来事でした。常に最悪の状況を想定し、園児の安全確保を最優先に運営してきたつもりですが、雨が降っている場合の避難等、今後更に細やかな想定の元で確実な避難計画を再検討していきたいと考えています。

夏ならではの活動を意識して行ってきました。プール遊び、かき氷、スイカ割り、流しそうめんなどです。特にプール遊びでは、子どもが楽しむことを最優先にしながらも衣服の着脱、脱いだ衣服の整理整頓など身の回りのことを自分ですることが定着するように一人一人に働きかけてきました。保育園では、プール遊び以外にも運動会に向けての活動、マラソンなど、衣服の着脱の機会があります。こうした活動は、自立に向けての練習のできる機会と考えています。また、子どもたちにとって「流しそうめん」は食べる楽しさを味わうとともに、暑い夏を少しでも涼しく過ごす知恵として伝えていけたらという思いもあります。青い孟宗竹を2つに割いて節を抜き、割った表面をグラインダでささくれを取り、滑らかに加工するという手間がかかりますが、こうした手間をかけても昔から伝えられてきた暑い夏を涼しく過ごす知恵を感じ取ってもらえたらなと思っています。今、子ども時代を送る子どもにとってそんな理屈を知らなくても経験として蓄積してもらえたら、大人になった時にその知恵を実感できるのではと期待もしています。まずは子ども自身が経験することが最も大切なことではないでしょうか。また、プール遊びは子どもにとって楽しい体験ではありますが、リスクが全くないわけではありません。先日、埼玉県の認可保育園でプールでの死亡事故がありました。19名の3歳以上の子どもがプール遊びの最中に溺れ、翌朝、死亡するという事故でした。当時、2名の保育士が監視していたと言いますが、実際に事故は起きました。どのような体制で2名の保育士が監視に当たっていたか、警察等で解明されるでしょう。今年から異年齢保育を始めた私たちもプール遊びなど、危険と裏併せの活動では運動量、運動能力に応じてグループ分けするなど保育士の目が行き届くように十分に注意を払い、事故の起きないように努めています。 園長  
緊急連絡は、ホームページ、携帯サイトにアップします。事前登録をお願いします。

ホームページ <http://www.iwanehoikuen.com/>

携帯サイト <http://iwanehoikuen.com/i/index.htm>

QRコード

